

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	活発な意見交流や分かりやすい授業を通じた児童による主体的な学びを展開する。
環境作り		日常生活や家庭学習、デジタルコンテンツの活用による語彙の獲得と既習事項の定着を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもち、話したり、書いたりすることで、アウトプットする力を付ける必要がある。 ・相手の考えを受け入れ、相手に自分の考えを伝えようとする意欲を高める必要がある。 ・数の構成を正しく理解し、活用する力を確実に定着させる必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 日常的に、心と体で聞く姿勢を繰り返し指導。 ② 言葉の宝箱（語彙表）を用いた語彙獲得のための学習。 ③ 友達同士の考えを聞く場の設定。 ④ 音読やあいさつで声を出す場の積極的な設定。 ⑤ 自分の意見を発表することへの慣れ。 ⑥ 家庭学習も活用した反復練習。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが伝わるように話したり、書いたりする力を付けさせる。 ・友達の考えを聞いて、自分の思いをもち、さらには自分の考えに取り入れようとする態度を育てる。 ・繰り返り上がりのあるたし算、繰り返り下がりのあるひき算など既習事項の定着を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 連絡ノート振り返りや週末の日記の課題等、自分の思いを表現する機会の確保。 ② 語彙を増やすため、言葉の宝箱や音読のドリルを活用。 ③ ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、聞く・話す場を多く設定。 ④ 1年生の問題も含め、デジタルドリルを効果的に取り入れた、既習事項の定着の強化。
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の国語の結果は、概ね区の平均を上回っているが、応用や書くこと読むことにおいて、課題が見られる。 ・新宿区学力定着度調査の算数の調査は、概ね区の平均を上回っているが、計算において個々のばらつきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを書いたり話したりする活動を通してアウトプットする力を育てる必要がある。 ・表現力を向上させるために語彙を増やすことや、活用する場面を作る必要がある。 ・継続した計算練習や、個々の課題に合わせた指導をする必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 日記や毎時間の振り返りを行い、自分の思いを表現する活動の充実。叙述を根拠に読むことができるように全文シートを活用。 ② 語彙表や国語辞典を一人ずつ用意し、常に言葉を調べたり使ったりできる場面の確保。 ③ 算数の習熟度別指導での個に応じた適切なコースへの割り振り及び昨年度の振り返りを交えて取り組めるような授業の展開。 ④ 毎時間の最初に九九や繰り返り下がりのある計算の継続した復習。

<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の国語の言葉、情報、言語文化の領域においては、全国平均を下回っており、言語理解を深めていく必要がある。 ・新宿区学力定着度調査の算数の各領域においては、概ね平均値ではあるが、正答率にばらつきがある。特に数と計算や図形についての理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を獲得することや、自分の思いや考えを文章化出来るようにする。 ・前年度の内容の理解が不十分である児童がいる。2位数以上の加法と減法、時計の読み方、長さなどの理解を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 毎日の漢字練習や、言葉の宝箱（語彙表）を用いて、語彙を増やしながらの文章作り等、言葉に注目できる機会の確保。 ② 国語辞典を活用し、日常的に言葉を調べることで意味理解につなげる学習場面の確保。 ③ 算数の習熟度別指導での個に応じた適切なコースへの割り振り及び昨年度の振り返りを交えて取り組めるような授業の展開。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の国語においては、概ね平均値ではあるが、観点別の正答率では、思考・判断・表現が区の平均を若干下回っている。 ・新宿区学力定着度調査の算数の各領域においては、概ね平均値ではあるが、観点別の正答率では、思考・判断・表現が区の平均を若干下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語や語彙などの量をさらに増やし、増やした熟語や語彙を用いて、自分の思いや考えを表現することができるようにする。 ・数の仕組みや四則計算等を確実に習得し、それらを用いて算数的な考え方で説明できるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 毎日の漢字練習や、言葉の宝箱（語彙表）の活用等、熟語や語彙の獲得場面確保。 ② 気になったことなどを自分の言葉や文章でまとめる自主学習の機会の確保。 ③ ペア学習やグループ学習の場面を増やし、友達同士で説明する機会を確保。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の国語の結果は、全ての項目で区の平均を上回っている。個人で見ると、得点に差があり、個々のさらなる引き上げが課題であるといえる。 ・新宿区学力定着度調査の算数の結果は、ほとんどの項目において区平均を上回っている。「変化と関係」の領域だけ区平均より 0.1 ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動を増やし、個別対応をする。 ・「変化と関係」はいわゆる数学にも大きくつながる領域であるため、授業と家庭学習の両方で力を付ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 応用問題と基本問題を常に用意し、どの児童も自分の実力に合った問題に取り組めるように工夫。 ② 各時間で「机間指導2周」を目標に、個別指導の充実。 ③ レディネステスト等を用いた算数の習熟度別指導での適切なコースへの割り振り及び個に応じた指導の充実による学力の確実な向上。 ④ 家庭学習を中心とした、「数量関係」領域の継続的な復習。